

大会名 Competition	第28回 能代カップ 高校選抜バスケットボール大会
No. M-115	Year Month Day Time 2015 年 5 月 5 日 15 : 00
場所 Place	能代市総合体育館

発行：能代市バスケットボール協会
http://ncup.snowland.net



チームA		チームB
明 成	(35 1st 25 17 2nd 18 22 3rd 12 28 4th 27 OT)	能 代 工
102 ○		82 ●

主審:Referee
北沢 岳夫 宮城
副審:Umpire
加藤 誉樹 東京
小川 裕之 秋田
テーブルオフィシャル:Table officials
能代

No.	pi-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F	No.	pi-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3P	2P	FT	F
4	x	増子 優騎		2	0	1	0	3	4	x	盛實 海翔	CAP	9	0	3	3	2
5	/	庄司 勇人		0	0	0	0	0	5	x	中村 碧杜		7	0	3	1	5
6	x	納見 悠仁		21	3	6	0	3	6	x	斉藤 大輔		21	1	8	2	2
7		富樫 洋介		-	-	-	-	0	7	x	小室 望海		15	1	4	4	1
8	x	八村 塁		37	0	16	5	4	8	x	大高 祐哉		2	0	1	0	2
9	x	足立 翔		9	0	4	1	4	9	/	高畑 陸		8	0	4	0	1
10	x	三上 侑希	CAP	33	10	0	3	3	10	/	金久保 翔		20	2	5	4	2
11		江戸保 賢人		-	-	-	-	0	11		柴田 一真		-	-	-	-	0
12		伊藤 修人		-	-	-	-	0	12		富樫 優汰		-	-	-	-	0
13		村上 孝太		-	-	-	-	0	13		植村 太一		-	-	-	-	0
14		江戸保 礼央		-	-	-	-	0	14		長濱 宏治郎		-	-	-	-	0
15	/	八村 阿蓮		0	0	0	0	0	15		山田 柗人		-	-	-	-	0
16		本間 紗斗		-	-	-	-	0	16		熊谷 弥高		-	-	-	-	0
17		清水 翔太		-	-	-	-	0	17		石田 淳		-	-	-	-	0
18		相原 アレクサンダー学		-	-	-	-	0	18		児玉 海渡		-	-	-	-	0
コーチ		佐藤 久夫						0	コーチ		柴田 直宏						0
アコーチ		高橋 陽介						0	アコーチ		杉沢 政						0
合 計				102	13	27	9	17	合 計				82	4	28	14	15

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

1Q, 両チームともハーフコートマンツーマンディフェンスでスタートする。立ち上がり、能代工はリバウンドから速い展開でシュートチャンスを作り、#6斉藤のゴール下や#7小室の3Pシュート、#5中村のインサイドで得点し流れをつかむ。対する明成は#8八村のフリースローや#4増子のリバウンドからのゴール下シュート、#10三上の3Pシュートで反撃し互角の展開。残り3分から明成が徐々に点差を広げ、#8八村のリバウンドからのゴール下や1対1からのドライブで8連続得点。35-25の明成10点リードで1Qを終了。

2Q, 能代工はディフェンスのプレッシャーを強めてミス誘い、#10金久保の連続得点で5点差に詰め寄るが、明成も#8八村のインサイドや#10三上の3Pシュートで再び流れを引き寄せ。残り3分で12点差となったところで、能代工は1回目のタイムアウトを取る。能代工はマンツーマンとゾーンを使い分けながらディフェンスを変化させ、スティールからの速攻や#4盛實のドライブで得点に結びつけるが、明成も#6納見のジャンプシュートなどで得点し、52-43の明成9点リードで2Qを終了。

3Q, 互いにディフェンスを崩すことができずにシュートミスやターンオーバーが続いたが、明成#8八村のインサイドと#6納見の3Pシュートでゲームが動き出す。残り5分で17点差となったところで、能代工は後半1回目のタイムアウトを取る。互いにシュートを決めきることができずに膠着状態が続いたが、明成は#8八村インサイドや#9足立のオフェンスリバウンドからのゴール下でリズムをつかむと、#10三上の3Pシュートが連続で入り流れをつかむ。能代工も#10金久保と#6斉藤が3Pシュートを入れ返し、74-55の明成19点リードで3Qを終了。

4Q, 早い時間帯に追いつきたい能代工業はボールマンに対して積極的にダブルチームを仕掛けてプレッシャーを強め、相手のミス誘う。能代工のペースで試合が進み、#10金久保のフリースローや#6斉藤のゴール下で得点し残り5分で12点差まで詰め寄ったところで明成がタイムアウトを取る。その後も#9高畑のジャンプシュートや#6斉藤のゴール下で8点差まで縮めたが、明成も#10三上の3Pシュートや#6納見のリバウンドシュートで入れ返す。残り3分12点差となったところで能代工が2回目のタイムアウトを取る。能代工は積極的にオフェンスリバウンドやドライブを試みるが、明成は#8八村のインサイドや#6納見と#10三上の3Pで入れ返す。結局、102-82の20点差で明成が勝利し、5戦全勝で優勝を飾った。

文責 【 畠山 芳 】